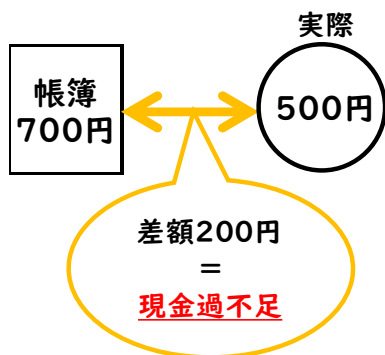


現金過不足の会計処理

- 現金において、帳簿残高と実際有高に差額がある場合、これを（ ）という。



○用語○

帳簿残高…帳簿上で残っている金額。
実際有高…実際にある（残っている）金額。

- 現金過不足がある場合は、（ ）の金額に合うように（ ）の金額を調整する仕訳を行う。

- ①. 実際の金額が帳簿上の金額より 200 円少ない場合
(現金過不足) 200 (現金) 200
- ②. 実際の金額が帳簿上の金額より 100 円多い場合
(現金) 100 (現金過不足) 100

- 差額の原因が判明した時は、現金過不足勘定を正しい勘定科目に（ ）仕訳を行う。

○用語○

振替え…ある勘定科目から別の勘定科目に移し替えること。

- なお、現金過不足勘定は一時的に不明な差額分を記録するだけの特殊な勘定として（ ）というものに属している。決算手続きにおいて原因不明な場合でも、この勘定科目を残すことはない。
※この点の処理方法は「53. 現金過不足および現金の決算整理《決算整理》」で紹介する。

仕訳問題

- 1-1. 現金の帳簿残高は 700 円で、実際有高は 500 円だった。
() ()
- 1-2. 調査の結果、不足額の原因は「水道光熱費」の記入漏れであることが判明した。
() ()
- 2-1. 現金の実際有高が 1,000 円、帳簿残高は 900 円だった。
() ()
- 2-2. 調査の結果、過剰額の原因は「売上」の記入漏れであることが判明した。
() ()